

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成17年12月22日(2005.12.22)

【公表番号】特表2004-519453(P2004-519453A)

【公表日】平成16年7月2日(2004.7.2)

【年通号数】公開・登録公報2004-025

【出願番号】特願2002-554134(P2002-554134)

【国際特許分類第7版】

A 6 1 K 47/46

A 6 1 K 31/711

A 6 1 K 35/74

A 6 1 K 35/76

A 6 1 K 39/00

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 31/12

A 6 1 P 35/00

【F I】

A 6 1 K 47/46

A 6 1 K 31/711

A 6 1 K 35/74

A 6 1 K 35/76

A 6 1 K 39/00 H

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 31/12

A 6 1 P 35/00

【手続補正書】

【提出日】平成16年12月28日(2004.12.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

皮下、筋肉内、皮内または経皮投与する免疫原性核酸、とりわけGpG-ODN、および/またはリポ多糖の炎症を引き起こす可能性を低減するためのポリカチオン性化合物の使用。

【請求項2】

該投与する免疫原性核酸および/またはリポ多糖が抗原をさらに含む、請求項1に記載の使用。

【請求項3】

該抗原が、ウイルス病原体または細菌病原体からの抗原、真核生物病原体からの抗原、腫瘍抗原、自己免疫抗原またはそれらの混合物よりなる群から選ばれる、請求項2に記載の使用。

【請求項4】

該ポリカチオン性化合物が、ポリカチオン性ペプチド、好ましくは塩基性のポリペプチ

ド、ペプチド結合を含む有機ポリカチオン、またはそれらの混合物である、請求項 1 ないし 3 のいずれかに記載の使用。

【請求項 5】

該ポリカチオン性化合物が、ポリリジン、ポリアルギニン、5 を超える、とりわけ 10 を超えるアミノ酸残基の範囲に 50 % を超える塩基性アミノ酸残基を含むポリペプチド、またはそれらの混合物である、請求項 1 ないし 4 のいずれかに記載の使用。

【請求項 6】

該投与する免疫原性核酸および/またはリポ多糖が、イノシン含有ODN (I-ODN) をさらに含む、請求項 1 ないし 5 のいずれかに記載の使用。

【請求項 7】

該投与する免疫原性核酸および/またはリポ多糖が局所的に作用する医薬またはワクチンとして投与される、請求項 1 ないし 6 のいずれかに記載の使用。

【請求項 8】

該投与する免疫原性核酸および/またはリポ多糖がさらに活性物質を含み、該活性物質が該ポリカチオン性化合物に対する親和性を有する、請求項 1 ないし 7 のいずれかに記載の使用。